

アイヌ民族博物館 北海道白老町若草町2丁目3番4号

# コタンメール

第3号 2002. 8. 10発行



## アットウシってどんなものですか？

～白老小中学生の博物館見学～



7月29日(月)、白老町内の小中学生50余名が2班にわかれて博物館を訪れました。「元気まち、しらおい」子ども未来プロジェクトの一環で、白老町の主な施設を見学する途中でした。

まず、館長の話を静かに聞いた後、館内の展示を見学しました。

歴史を勉強することは、これからの社会を作る物差しを見つけることだ、アイヌ文化から学ぶもっとも大切なことは自然を守り後世に残そうとしたことだ、これからの世の中を作るのは

年寄りではなくあなたがたですよ、という館長のことばに耳を傾け、何か興味のある物を発見して帰ってくださいという宿題をもらって展示を見ていました。

子どもの中で、アットウシってどれですかという質問が出て、館長を喜ばせました。自ら学び自ら考えるのが、新しいことを生み出す原動力になるからです。

この子たちに、これから何度も博物館に足を運んでほしいと思います。

### 第5回消費生活展に出展

7月25日(木)～26日(金)と白老コミュニティセンターで開催された第5回消費生活展に、博物館からも「アイヌの食文化」というテーマで出展し、村木学芸員が説明にあたりました。

山野から集めたたべもの、サケ、畑で栽培したヒエやアワなどが展示されましたが、皆さん手にとってしげしげと見つめていました。

ウバユリからとった澱粉から、戦争中、食糧



難の子ども時代を思い出した人もいて感慨深げでした。

りゅうひめ

# 龍姫、コンテストで2席!!

北海道犬保存会鶴川支部創立50周年記念展覧会で



「龍姫」はアイヌ民族博物館で飼っている、北海道犬の中で一番子どもっぽい犬です。飼育係の塩田知治さんは「やんちゃな子だ」といいます。通称「アキ」と呼ばれていて、今年4歳になります。

このアキが、7月21日に鶴川町で開催された同支部創立50周年記念展覧会で、第2席になりました。

このコンテストは、どこまで北海道犬らしい姿や形をしているか、歩く姿が美しいかなどを競うもので、今回は約300頭が参加しました。

アキは生まれてすぐ、飼育係の塩田さんが引き取ってずっと育ててきました。小さい頃はカ

ルシウム不足で足が曲がっていて、生きられるかと思ったほどでした。

2ヶ月ぐらいで動けなくなったのですが、塩田さんは獣医に見せたり、1週間も温泉に入れてマッサージを続け、やっと快復し元気を取り戻しました。

その甲斐があって、1歳半のときには保存会本部展で第2席に輝いたそうです。

アキにもう一度チャンスを与えたい。第1席をとらせたいと、強く思う塩田さんのようすは、まるで病弱だった我が子を思う親のように見えました。

塩田さんの思いだけでなく、北海道犬として高い評価を得ることは、アイヌの狩猟に欠かせなかったアイヌ犬（北海道犬）を保存することが、アイヌ文化継承の一つであるという考えの博物館にとっても大切なことでした。

生きるかと危ぶまれたアキが、ここまで立派な犬に育てられたことが、文化の保存ということだからです。

アキには、これから、彼女の優秀な遺伝子を持った子供をたくさん産んでくださいねと、お願いするつもりです。

9月の文化教室

## アイヌの儀礼

—『葛野辰次郎の伝承』から—

9月7日(土) 17:30~

講師 安田益穂 (学芸員補)

場所 博物館映像展示室

申込み 82-4199 (学芸課直通)

### ■編集者の言葉



博物館の中で、サケの薫製を売っている。うまい。ただの薫製ではない。アイヌが囲炉裏の上に吊って、長い時間かけて作ったものだ。冬に備えた保存食の一つでサッチェブという。乾いた魚という意味だ。

囲炉裏の上にはこのほか、ウバユリの根のだんご状のものやクマの肉、小魚などの乾物がさがっている。これはアペフチカムイ（火の女神）が丹精こめて作っているのだろう。囲炉裏がなくなった我が家に、もうアペフチカムイはいない。飢え死にしそうになるのはそのせいだろうな。(中村 齋)

●コタンメールはホームページでも見られます。  
THE AINU MUSEUM アイヌ民族博物館

ホームページ <http://www.ainu-museum.or.jp>  
Eメール [museum@ainu-museum.or.jp](mailto:museum@ainu-museum.or.jp)